16　　困った色好み 　　　　　　　　　　　　　敬語②　二方面への敬語

ただにⅠしも思すまじき御心ざまを見知り給へれば、思しよりて、「ものの心得アつべくはものし給ふイめるを、うらなくしも打ち解け、頼みＡ聞こえＢ給ふらむこそ心苦Ⅱしけれ」とＣのたまへば、「など頼もしげなくやはあるべき」と聞こえ給へば、「いでや。我にても、また忍びがたう、もの思はしき折々ありⅢし御心ざまの、思ひ出でウらるる節々なくやは」と微笑みて聞こえＤ給へば、あな心疾と思ひて、「うたてもＥ思しよるかな。いと見知らずしもあらエじ」とてわづらはしければ、のたまひさして、心の中に、人のかう推しはかり給ふにも、いかがはあべからむと思し乱れ、かつはひがひがしうけしからぬ我が心のほども、思ひ知られ給うけり。

【本文チェック】

①　ア～エの助動詞の、文法的意味を〔　〕に書きなさい。

ア〔　　　　　　〕　イ〔　　　　　　〕　ウ〔　　　　　　〕　エ〔　　　　　　〕

②Ⅰ～Ⅲの「し」は、ａ動詞・ｂ形容詞の一部・ｃ助動詞・ｄ副助詞のどれか。それぞれ【　】に記号で書きなさい。

Ⅰ【　　　】　Ⅱ【　　　】　Ⅲ【　　　】

③本文は、を褒める光源氏を見たが苦言を呈する場面から始まる。傍線部Ａ～Ｅの敬語の敬意の対象は、ア光源氏・イ紫上・ウ玉鬘のどれか。それぞれ（　）に記号で書きなさい。

Ａ（　　　）　Ｂ（　　　）　Ｃ（　　　）　Ｄ（　　　）　Ｅ（　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　頼む〔２〕（四段活用）　　（　　　　　　　）

２　ひがひがし〔７〕　　　　　　①（　　　　　　　）

②ひねくれている

③調子が変だ

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　そのかしこしと聞こえたる十人を召す。（源氏物語）

ア　お聞きになっ　　イ　知っ

ウ　評判になっ　　　エ　信頼し

（　　　）

２　まゐるにも、に取りすゑて、ものし給ひける。（十訓抄）

ア　持ち　　イ　食べ

ウ　言い　　エ　行き

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部の敬語の種類を後から選べ。

１　人々より（中納言のもとへ）宝ども多く①奉り ②はべる。（住吉物語）

２　（は源氏に）かくれるほどの御物語など①聞こえ ②たまひて、（源氏物語）

３　（がに）「よきさまに①奏し ②給へ」　（十訓抄）

４　中将、藤壺に①まうで ②たまひて、ありし御物語したまふ。（うつほ物語）

５　（聖が男に）「この御恩は極楽にて①申し ②候はん」（宇治拾遺物語）

ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語

１　①（　　　）　②（　　　）　　２　①（　　　）　②（　　　）

３　①（　　　）　②（　　　）　　４　①（　　　）　②（　　　）

５　①（　　　）　②（　　　）

問４　問３の傍線部について、誰から誰に対する敬意かを答えよ。

１　①（　　 　　から　　 　　へ）　②（　　 　　から　　 　　へ）

２　①（　　 　　から　　 　　へ）　②（　　 　　から　　 　　へ）

３　①（　　 　　から　　 　　へ）　②（　　 　　から　　 　　へ）

４　①（　　 　　から　　 　　へ）　②（　　 　　から　　 　　へ）

５　①（　　 　　から　　 　　へ）　②（　　 　　から　　 　　へ）

問５　問３の文の、次の箇所を現代語訳せよ。なお、３は動作の対象を補うこと。

１　奉りはべる　　（　　　　　　　　　　　　　　）

２　聞こえたまひて（　　　　　　　　　　　　　　）

３　奏し給へ　　　（　　　　　　　　　　　　　　　　　）

４　まうでたまひて（　　　　　　　　　　　　　　）

５　申し候はん　　（　　　　　　　　　　　　　　）

【探究】表現してみよう　＊行数はノート本冊での本文の行数を表す。

問６　４行目「微笑みて」については、本書問六でも問われている。その解釈に基づいて、紫上の心中の思いを直接話法でつぶやいてみよう。

〔

〕

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝強意　イ＝推定　ウ＝自発　エ＝打消推量

②　Ⅰ＝ｄ　Ⅱ＝ｂ　Ⅲ＝ｃ

③　Ａ＝ア　Ｂ＝ウ　Ｃ＝イ　Ｄ＝イ　Ｅ＝イ

問１　１＝頼りにする　２＝非常識だ

問２　１＝ウ　２＝イ

問３　１　①＝イ　②＝ウ　２　①＝イ　②＝ア　３　①＝イ　②＝ア

　　　４　①＝イ　②＝ア　５　①＝イ　②＝ウ

問４　１　①＝作者・中納言　②＝作者・読者

　　　２　①＝作者・源氏　　②＝作者・僧都

　　　３　①＝公達・天皇　　②＝公達・顕頼

　　　４　①＝作者・藤壺　　②＝作者・中将

　　　５　①＝聖・男　　　　②＝聖・男

問５　１＝差し上げます　　　　　　　２＝申し上げなさって

　　　３＝天皇へ申し上げてください　４＝参上なさって

　　　５＝申し上げましょう

問６　観点　浮気な色好みの性格に振り回されてきた紫の上の経験をもとに、玉鬘や源氏に対してどのように思っているのかを考え、表現できていること。

【現代語訳】

問２　１　その才能が優れていると評判になっている学生十人をお呼びになる。

２　お食事を召し上がるときにも、折敷に取り置いて、食べなさった。

問３　１　人々から（中納言のもとへ）多くの宝物を差し上げます。

２　（僧都は源氏に）こうして山籠もりをしている間のお話などを申し上げなさっ

て、

３　（公達が顕頼に）「よいように天皇へ申し上げてください」

４　中将は、藤壺のもとに参上なさって、過日のことなどをお話しになる。

５　（聖が男に）「この御恩は（いずれ）極楽で申し上げましょう」